



12/15 市ボラ連研修会 12/16～17 寺井小学校福祉体験授業 12/18 北陸電力小松フードドライブ 1/2 市新春互例会 市内の子ども食堂へ寄付



1/5 消防団出初式 1/5 消防団新年交流会 1/10 赤十字奉仕団チーム20新年会



1/12 能美市成人式 1/12 市トランポリン協会初飛び会 1/15～福祉実務者研修



1/18 夜間中学講演会（金沢市） 1/21～23 議会運営委員会行政視察



1/29～31 総務産業常任委員会行政視察 2/1 夜間中学講演会（岡山市）



2/1 としあき会総会 2/7 いしかわ伝統工芸フェア 2/8 能美シェレホフ協会新年のつどい 2/15 市日中友好協会



2/9 能美市テニス協会インドア大会 2/9 佐々木紀代議員 国政報告会 2/19 産学官金意見交換会 2/19 市農業振興協議会総会



2/22 フードバンク&子ども食堂意見交換会 2/23 県体操協会理事会



2/22 西川熊田川回収促進期成同盟会 設立総会 2/24 エアロビック連盟新年会 3/20 全国夜間中学キャラバン in いしかわ 3/29 ブルーミングパークお披露目式

能美市議会議員 たなか さくじろう 田中 策次郎

絆 きずな ～能美市政報告～



3月議会 一般質問 (p2・p3)

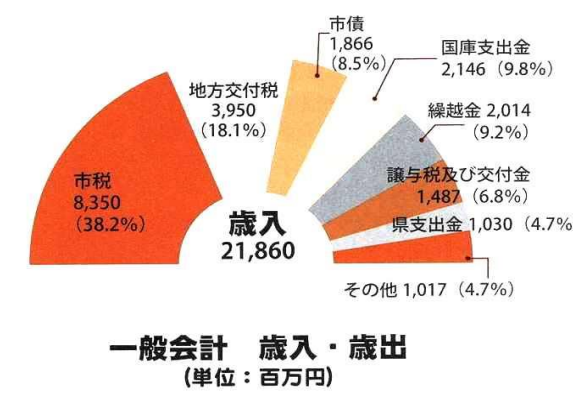
- 和田山古墳群を活かした新博物館の構想を問う
- 夜間中学のニーズ調査と設置の検討を
- 教職員の多忙化解消への取り組みを問う
- 災害時における民間自主避難施設の登録について

本年度予算にも、これまでの多くの提案が反映されました！(p

令和2年度
一般会計 218億6,000万円
(前年度比△6億4,000万円 △2.8%)
予算総額 397億4,320万円
(一般会計・特別会計・公営企業会計を合わせた予算額
対前年度比△11億1,270万円 △2.7%)

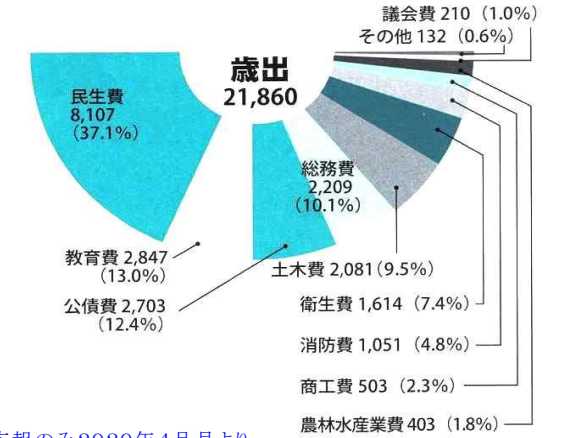
全体像とポイント

令和2年度当初予算の一般会計、特別会計、企業会計の予算総額は、397億4,320万円と対前年度比11億1,270万円、2.7%の減となりました。このうち一般会計の総額は、歳入歳出それぞれ218億6,000万円となり、前年度当初予算と比較し、6億4,000万円、2.8%の減となっています。



歳入

市税は、個人市民税については配偶者特別控除の見直し等、法人市民税についても法人税割の税率の見直しによりそれぞれ減収を見込みました。固定資産税は、家屋の新增築分と好調な企業誘致の影響もあり設備投資が進んでいることから増収を見込みました。市税の総額では、対前年度3億200万円、3.8%増の83億5,000万円を見込みました。地方交付税は、市税の増収見込みなどを考慮し、対前年度比1億8,000万円、4.4%減の39億5,000万円としたほか、市債は、博物館建設事業の進捗などにより対前年度比8億8,460万円、32.2%減の18億6,560万円としました。



歳出

民生費は、健康増進施設整備事業やのみ地域力強化支援ファンド創設事業などにより、対前年度比4億2,834万円、5.6%増の81億734万円を計上しました。土木費は、令和元年度の国補正予算に伴い、道路事業を前倒したことなどにより、対前年度比2億2,475万円、9.7%減の20億8,063万円を計上しました。教育費は、令和元年度の国追加内示に伴う宮竹小学校大規模改修事業の前倒しや博物館建設事業の進捗などにより、対前年度比8億1,398万円、22.2%減の28億4,727万円を計上しました。公債費は、過去の大型事業の償還完了や利率の高い起債の償還が進んだことから、対前年度比9,388万円、3.4%減の27億278万円を計上しました。

3月議会で「定数2減」の議員定数条例を可決！ 現行の18人から16人に（来年2021年秋の 次回市議会議員選挙より適用されます。）

その他、下記の議案が可決されました。

- 「番匠 啓介 副市長を選任」（県農林水産部 農業政策課 農業参入・経営戦略推進室次長）
- 「開道 昌信 副議長を選出」（無会派 3期 緑が丘）
- 「議会基本条例検証調査特別委員会を設置」（委員長 田中 大佐久・副委員長 卯野 修三）

●和田山古墳群を活かした新博物館の構想を問う

今年の秋に新博物館がオープンします。市長の「何度でも訪れたい博物館」をコンセプトに進められ、現在ほぼ建物が出来上がり内装や展示の作業が行われています。新博物館の和田山側には全面大きなガラス窓がしつらえてあり、室内のどの場所からも和田山を眺める構図となっています。山は毎年のように手を入れなければ荒れてしまいます。何度でも訪れたい博物館であるためには博物館の充実はもちろんのこと、博物館から見える和田山の景観に加え和田山の芝生公園や和田山古墳史跡群の散策などの環境整備が求められる。

●新博物館の周辺整備として、和田山古墳エリアの今後の利活用について問う

答 井出 敏朗 市長

ふるさと歴史の広場は、開設以来28年が経過し老朽化が著しくリニューアル計画を進めている。能美古墳群をめぐる散策コースや防災センター、ふるさと交流研修センター「さらい」や周辺施設をつないだ周遊コース、健康増進のためのウォーキングコースの計画や、新博物館を拠点として、気軽に古墳めぐりができるようにレンタサイクルを整備するなど、一体的な活用を図っていく。また、いしかわ動物園や九谷陶芸村、辰口温泉などの観光施設と連携を図ることで、能美市をめぐる観光ルートの一つとして提案し、新博物館への誘客と交流人口の拡大に繋げていきたい。



●夜間中学のニーズ調査と設置の検討を

夜間中学という学びの場があることを知っていますか。いわゆる「夜間中学」は、中学校のうち夜の時間帯に授業が行われる学級のことをいいます。全国の夜間中学では、10代から80代の方が学んでいます。いずれも、何らかの事情で学齢期に義務教育の機会を十分に得られなかった人たちです。夜間中学では、多様な背景を持った人たちの「学びたい」という願いに対応して幅広い教育を行うなど、学びの機会の確保に重要な役割を果たしています。

今後、新たに必要となってくるのが、病気や不登校などで学校に行けない、行きたくない、そして虐待や外国籍などで学校に行かせてもらえない子どもが学校の教育的配慮により中学校を卒業する、いわゆる形式卒業者が、読み書きや計算等を学べないまま社会に出て、働く意思があっても就職につけず、社会から取り残されている方々への支援です。



(岡山自主夜間中学の授業の様子)

あらゆる世代の人達が、再び学びなおす場である夜間中学が必要であると考え。

●夜間中学のニーズ調査と設置を検討出来ないか

答 谷口 徹 教育長

義務教育を修了しないまま学齢期を経過した方や、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方、外国籍の方等が、夜間中学等で学習することは、社会で自立する基礎を培う上で大切であり、普通教育を受ける機会を提供することは、十分意義あることだと考える。

今後、学び直しの方や、外国籍の方が増えるにつれ、夜間中学に関する要望があがることが予想される。文部科学省が、少なくとも各都道府県に1校の夜間中学設置を促進していることもふまえ、県教育委員会と情報を共有していきたい。



●教職員の多忙化解消への取り組みを問う

文部科学省は平成28年度の教員勤務実態調査の結果、多数の教職員の時間外労働が過労死ライン相当にまでなっている状況を踏まえ、学校における働き方改革の取り組みを進めようとしています。中央教育審議会でも平成31年に答申を行い、1カ月の在校等時間を超過勤務45時間、年間では360時間を上限の順守に向け、総合的な取り組みを求めている。石川県でも平成30年3月に「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を定め、各学校での業務改善を進めています。

●市では教職員の多忙化をどのように解消していくのか、今後の取り組みを問う。

答 谷口 徹 教育長

教職員の多忙化解消については、能美市教育委員会として最重要課題の1つとして捉え、県の「教職員の多忙化改善に向けた取り組み方針」に沿って、取り組みを進めている。

- 中学校の部活動の1日の活動時間や週の総時間数を定め、時間外勤務時間の削減
 - 教職員の負担軽減を目的とし部活動では、教職員の代わりに大会引率が可能な部活動指導員を3名に
 - 専門的な指導を行い教職員をサポートする外部指導員を20名配置
 - 教職員の事務作業を補助するスクールサポートスタッフを3名から新年度は4名に増員
 - ICT機器の効果的活用で授業を効率的に行ったり、授業準備を短時間で済ませたりする環境整備を進める
- 学び方、学ばせ方の改善が進むことで、教職員に、ゆとりが生まれ、さらなる自己研鑽のための時間に充てることで、教職員の力量アップ、人間力アップにつなげ、最終的には子どもたちの笑顔を生み出すことにつながると考えている。

●災害時における民間自主避難施設の登録について

一昨年の西日本豪雨や昨年の台風19号の被害は大規模かつ広範囲なものとなっており、これまでに各自治体が想定する以上の被害や避難者が出ています。災害時には市が指定する指定避難所がありますが、近年の大規模災害では指定避難所はすぐにいっぱいとなり、多くの人が避難所に入れず、地域の公民館に加え、地震の場合は車中泊や空き地、駐車場で簡易テントでの宿泊や、ビニールハウスでの宿泊、水害の場合は自宅の2階が浸水していなければ多くの人々が2階で避難していました。その多くは避難所に対応できない災害弱者と言われる高齢者や障がい者や子ども達です。これらの自主避難者には行政からの物資の支援や生活再建の情報なども届きません。

小規模高齢者施設では無理に指定避難所に移動するよりも、安全が確認できれば施設内にとどまる選択肢も必要です。工場などの堅強な建物の場合も同様です。それらの被災者が指定避難所に押し寄せるより、行政が自主避難所として認識し、指定避難所と同様に情報や物資の共有を行える体制が必要と考えます。

これまでの災害でも自主避難所は行政職員の支援は求めず、各管理者の責任の下で運営を行っています。求められるのは情報と物資の共有です。希望事業者の登録により希望した各施設や事業者の危機管理意識の向上も進むと考えられます。

いま災害によって命を失う方よりも避難後に命を失う災害関連死される方が多くなる傾向があり、これらの予防も行政に求められています。今後は災害時の行政と市民や民間事業者のさらなる連携・協力が必要と考えます。

●指定避難所の過剰な受け入れ防止と、住民の安全な避難所運営・確保のため、災害時に希望する高齢者施設や事業所を自主避難施設として登録を行い、情報や物資の共有が出来ないか

答 吉光 年治 総務部長

災害対策基本法に基づき市が指定する「指定避難所」へ行くことだけが避難ではなく市民それぞれが安全を確保できる場所へ向かうことも、避難と考える。希望する高齢者施設や工場・事業所を災害時の自主避難所として登録することは、安全な避難場所を確保するうえで大変有効な方法と思われる。しかし、これまで制度として取り組んだ先進事例がなく、まずは関連した情報を収集し、制度としての実効性や課題などを研究したい。



本年度予算にも、これまでの多くの提案が反映されました！

(一般質問の議会開催年月)

- 能美古墳群保存整備事業 能美古墳群整備と活用を (令和 2年 3月・平成27年9月)
- SDGs推進事業 SDGsロゴマークを使って新年度事業の発信を (令和 元年12月)
- 地域生活拠点等整備事業 障がい者の親の高齢化による親亡き後の生活支援を (令和 元年 9月)
- のみ地域力強化支援ファンド ボランティア活動支援・地域福祉支援・子ども食堂支援 (令和 元年 6月・平成29年3月)
- CHAT窓口申請事業 外国人対応のワンストップ窓口の設置を (平成30年 6月)
- 地場産業推進事業 九谷焼利用の飲食店への支援を (平成29年 9月)
- ユニバーサル推進事業 障がい者差別解消法・合理的配慮・バリアフリー (平成29年 6月)
- 消防車両購入事業 市消防本部の人員や消防車・救急車の増配備を (平成29年 6月)
- 男女共同参画推進事業 「女性管理職と登用」「女性リーダーの育成」を (平成29年 3月)
- スマート農業農村実証事業 企業協力による農業支援を (平成28年12月)
- コミュニティスクール事業 地域で子どもを支える仕組みを (平成27年12月・平成27年3月)

等々、その他にも議会一般質問や委員会での提案や、多くの議員と共に提案したものが施策として実現しています！

6月議会一般質問は6月16日(火)と17日(水)です

場所 能美市本庁舎 三階議場 事前申込みは要りません。お気軽にお越し下さい。

ご意見・ご相談等がございましたら下記まで☆

連絡先記載の無いご意見は返信が出来ませんので、ご返答希望の方は連絡先をお忘れのないように願います。

能美市議会議員 田中 策次郎

〒923-1124 石川県能美市三道山町チ 16-2
TEL 0761-58-5037 FAX 0761-58-5209
Mail kizuna@3926jp.net http://3926jp.net



日頃の活動もご覧ください

